

史遊サロンの通信

No.254号
平成28年
9月5日

編集
042-754-9360
arai-hiroshi@
jcom.home.ne.jp
新井宏

韓国・破綻した「均衡者外交」 オリンピックピックまで不振に

やっと涼しくなった。大型台風も南下・北上そして左折、変な夏であった。お元気ですか。

朝早く目覚めるので、結構オリンピックを見た。やはり日本の逆転劇に心が躍る。

ついでに韓国のオリンピックニュースも見るが、すっかり意気消沈していて、その様子は最近の政治や経済とそっくりである。

無理もない。一九八八年のソウル大会以来、七回のオリンピックで、韓国は十位以内に六回も入ったが、日本は一回しか入っていない。

ところが今回は、日本のメダル数四十一個に対して韓国は半数の二十一個に過ぎず、立場が完全に逆転している。かつて男子マラソンの金・銀メダル国であった韓国は、リオでは百四十名の完走者中、百三十一位と百三十

八位。カンボジアに国籍を移して出場した「三十九歳の芸能人・猫ひろし」の百三十九位と最下位争いをする惨憺たる成績であった。

政治面では、せっかく朴槿恵大統領が、北天安門で習近平主席と腕を組み、アジアインフラ投資銀行に参加して、中国のご機嫌を取っていたのに、北朝鮮核ミサイル問題では完全に裏切られ、執拗にこばみ続けてきた米軍のサード(終末高高度防衛)構想を、いきなり認めざるを得なくなった。決定は正解であろうが、未熟な外交である。

面子を潰された中国は、いきり立って、韓国を属国扱いし始めた。王魏外相は「外交儀礼」さえ無視した無礼な態度で韓国に臨み、せっかく獲得したアジアインフラ投資銀行の副総裁の座も取り上げ、マスコミを総動員し

今月の史遊サロンは予定通り第三土曜日の九月十七日です。会場は定例の銀座ルノール八重洲北口会議室。史遊サロンに紹介された話題やオリンピックピックなどを楽しみましょう。
なお、十一月の史遊サロンも予定通りの第三土曜日の十一月十九日です。

て「韓国たたき」を演出し、韓国を震い上がらせている。中国と腕を組み、北朝鮮に圧力をかけ、ついでに「日本たたき」を図ろうとした朴槿恵の意図は完全に崩壊し、いまや「慰安婦問題」などと言ってられない。

外貨も豊富になって、もはや日本との通貨スワップ協定など不必要と超高姿勢であったが、現スワップ協定先の過半を占める中国がいつ急変するか分からない状況の中で、日本と和解し、再度スワップ協定を結ぶしか道はないのである。

そんな風になることは、二年前に『まんじ』に「均衡者外交・あるいはポーランドと韓国」という雑文を書き、昨年末には「史遊会」でも講演した。日米が危惧するなかで、韓国が

「均衡者外交」を気取り、中国に近づく様子が、第一次世界大戦後、やっと祖国を回復してもらったポーランドが、ナチスとソ連を天秤にかけて「均衡者外交」を進め、再び国が分割された歴史とあまりにも良く似ていたからである。

絶対に手を握るはずのないナチスとソ連が秘密裏にポーランドの分割を決めたために第二次世界大戦は始まった。

ポーランドは、台頭する独ナチスへの防衛策としてソ連と不可侵条約を結びながら、フランスに対する不信からナチスにも近づき、ヒットラーの策にはまってしまい不可侵条約を結んだ。

韓国は、北朝鮮に対する恐怖や日本に対する不信から、体制の異なる中国・ロシアに近づき、右往左往しながら、結局、日米と組むしかない現実を味わっている。

中国は面子をつぶされたことを口実に、韓国に対する宗主国意識を丸出しにして本音を剥き出し韓国に迫っている。ナチスとそっくりである。韓国は、日米と組む以外の方法はないのである。回り道をし過ぎた。

経済面では、最大の輸出先である中国が、過剰生産に苦しみながら、韓国との競合分野

で力を付けてしまい、韓国は先行き真つ暗である。若者達の失業率は十パーセントほどで過去最悪であるが、この統計にはニートが入っていない。ニートとは若年層で「働かないばかりか、働こうともしない人」を意味するらしいが、超高学歴の韓国で、ニート比率が四十三パーセントにも達し、経済が破綻したギリシャの二十八パーセントよりも高い。

ところでオリンピックを見ていて気がついたことは、チャイナ表示である。中国をチャイナと言うのは常識であるが、語源は「清」である。

日本では「支那」は差別用語であるが、今や中国は、おおっぴらに「清」にお里帰りしている。「国際法」など頭から無視して、南シナ海や東シナ海を中国の領海と主張しているばかりではなく、チベット、ウイグル、内モンゴル、台湾はもちろん、韓国さえも中国領土だとの意識を強烈に示し始めた。それは「清」の領土だったからである。

最後に、史遊サロンの状況を簡単にお知らせする。出席者数は、三月の十九名は別格として、五月の十二名、七月の十三名である。

史遊サロンを通じての出版企画も六〇七件ほどになりそうである。無理をせず、気ままの会として、続けたい。
(新井宏)